

● Infomation ● イベントカレンダー

和光自然環境を守る会 イベント情報

第9回 和光新発見&川遊び
～親子で楽しむ さつまいもとヤーコン堀り～

ヤーコンはキク科の植物で、
グリアやキクイモの仲間なんだよ!

日 時：平成17年10月29日(土) 午前10時～

集 合：越戸川 赤池橋観水公園 ※午前9時45分に集合

内 容：ボート遊び、和光高校吹奏楽団演奏、川の写真展示、投網と魚類調査、

蒸かしいも、焼きそば等模擬店 など

※さつまいもとヤーコン堀り(午後12時開始)の参加には事前予約が必要です。

参加希望者は以下の問合せ先までご確認ください。

参加費：200円 ※保険料として当日徴収

後 援：和光市環境課

問合せ：048-201-3111 (和光新聞社)

白子川源流・水辺の会 イベント情報

第5回 白子川・源流まつり
～湧き水と生きもの豊かな白子川源流にしましょう～

ステージでの催しが
楽しそうだなあ～!?

日 時：平成17年10月30日(日) 午後12時～3時半

会 場：練馬区立大泉井頭公園(練馬区東大泉7丁目、南大泉4丁目地先)

内 容：<ステージ> 昔の白子川を語る、大泉南小の白子川学習発表、音の泉コンサート、
ハーモニカと語り、ゴーバックサタデイズ

<展 示> 小学生作「白子川MAP」、大泉地区の昔の航空写真、近隣住民の詩・
俳句・写真・絵画作品等、井天池の絵、しらこがわんこ写真大集合

<コーナー> プレイパーク、水質・水量検査体験、白子川の生き物・植物展示、
白子川水中映像放映、川遊び体験(ペットボトルイカダなど) など

後 援：練馬区環境保全課、練馬区教育委員会 ほか 協賛・協力団体多数

問合せ：03-3924-9181 (本田)

新河岸川水系水環境連絡会 お知らせ

「身近な川の一斉調査 2005 報告書」の原稿について (お願い)

「身近な川の一斉調査 2005 報告書」の作成にあたり、皆様の活動紹介や身近な川の一斉調査
(2005年)の実施内容などの原稿を、事務局までお送り下さいますようお願い致します。

締切り：平成17年11月6日(日)

内 容：各団体の活動紹介、各団体の活動写真、身近な川の一斉調査(2005年)のコメント・
感想、実施写真 など

送付先：新河岸川水系水環境連絡会 藤井 (y.fujii@guitar.ocn.ne.jp)

丹野 (tanno@nuh.biglobe.ne.jp)

備 考：「身近な川の一斉調査 2005」の報告会は11月27日(日)に開催します。

事務局便り

8月までのリレーフェスティバルも盛況の内に終了し「ホッ」と一息、9月には当連絡会
としての大きなイベントも無かったことから、今号では新河岸川流域内で行われている関連
団体の諸活動等にスポットを当てて
みました。

皆さんの、夏が過ぎても少しも変わ
らない積極的な活動ぶりには、とても
感心しました。事務局としても負けず
に「頑張らねば」ですぞっ!!

●連絡先

〒115-0042 東京都北区志茂5-41-1

新河岸川流域川づくり連絡会 事務局
(国土交通省関東地方整備局 荒川下流河川事務所 調査課内)

TEL: 03-3902-3220 FAX: 03-3902-2346

URL: http://www.ara.or.jp/araage/shingashi/

E-mail: shingashi@ara.or.jp

THE SHINGASHI BASIN NEWS

新河岸川流域しんぶん

里川

SATO-GAWA

発 行 ●新河岸川流域川づくり連絡会 (荒川下流河川事務所 調査課内)
住 所 ●東京都北区志茂5-41-1 TEL:03-3902-3220 FAX:03-3902-2346
発行日 ●2005年(平成17年)10月17日

VOL.36



切り絵 毛利得範

目次

- P2-3 柳瀬川下流域での活動紹介
～NPO法人エコシティ志木の取り組み～
- P4-5 湧水サロン「案河子(かかし)」の立上げ
レポート:「都幾川で川遊びin たまがわ村」
- P6-7 新河岸川総合治水事務所の取り組みと役割
- P8 流域イベント・インフォメーション
事務局便り

10月になってようやく朝夕の涼しい秋らしい
日々を過ごせるようになりましたね! 残暑の
厳しかった9月を乗り切り、皆さんもホッと
一息ついている頃でしょうか?
さて、今号では新河岸川流域川づくり連絡会
メンバーである関連団体や見学会・交流会で
お世話になっている新河岸川総合治水事務所
等の紹介記事を掲載させていただきました。
紙面に限りがあり、活動や役割の全てを紹介
することはできませんが、本紙を読んで何か
しら気にかけていただき、次のステップとして
気になるイベント等に参加していただければ
幸いに存じます。

流域の活動紹介 ～第一段～ 柳瀬川下流域での活動紹介！

～NPO法人エコシティ志木の取り組み～

今号では、「流域の活動紹介～第一段～」として、新河岸川流域川づくり連絡会の内、柳瀬川流域ネットワークの一団で、主に柳瀬川下流域の環境や福祉、まちづくり等に取り組んでいる「NPO法人エコシティ志木」の活動について紹介します。

●環境学習

7月30日(土)は、三芳町立竹間沢公民館「竹の子エコクラブ」主催の川遊びに協力しました。場所は柳瀬川右岸、志木大橋のたもとです。

水生生物調査では、全般にやや汚れた川の指標生物がほとんどで、子供たちは皆残念そうでしたが、その後の、魚の多いそうなお隣の草むらを目指しての瀬遊びや、タモ網を使っての魚取りは、普段あまり体験しないことだったのか、たれも楽しそうな様子でした。

魚取りの後は、取った魚を水槽に入れて観察する水族館や投網のデモンストレーションなどを行いました。竹の子エコクラブの皆さんも、楽しみながら身近な環境について学習できたことと思います。

こどもエコクラブでは水生生物調査に合わせて川遊びを楽しんだよだね～!



水生生物探し
水質指標となる水生生物を探します。



激流遊び
魚取りのポイント目指して激流の瀬を渡ります。



魚取りの指導
魚の取り方を指導します。追込み漁が基本ですネ。



お魚ゲット!
種類は分からないけど、お魚ゲットで大喜びです!

●こどもとおとなの自然塾

9月10日(土)には、財団法人埼玉県生態系保護協会志木支部との共催で「こどもとおとなの自然塾 ～秋の夜に虫の声を聞こうかい～」を実施しました。

午後5時に東武東上線「柳瀬川」駅前に集合、参加予定者が全員集まったところで、まずは駅そばの柳瀬川へと向かいます。虫除けスプレーを手足や首周りにしっかりと擦りつけて準備万端! 一心不乱に虫を追いかけると30分、バツの仲間など6種類の虫を捕まえることができました。

その後、捕まえた虫を皆で観察したり、CDでエンマコオロギやカナタタキなどの声を確認したりしました。そして最後に、実際の虫の声を求めて柳瀬川の堤防から館中央公園まで歩きました。

木の上で鳴く外来種のアオマツムシの音が大きくて、その他の虫の鳴き声は余り聞こえなかったのは残念ですが、虫に詳しい方たちから様々な情報が得られて、イベントのタイトルとおり、子供も大人も身近な自然について再認識できたことと思います。



駅そばの河原で、たとえ駅そばでも、これだけの緑があれば大丈夫。



子供も大人も親子水入らずでの虫取りの様子。羨ましいぞ!



観察会の始まり
30分かけて取った虫たちを観察します。



プレゼント
参加者には漏れなくスズムシをプレゼント!

エコシティ志木は、市民の手で志木市の環境プランをつくろうとの目的で誕生しました。緑豊かな循環型で福祉の充実した地域社会の実現を目指し、自然・歴史・文化等の地域資産(お宝)を楽しみながら未来に残す活動を行っています。

なお、活動には、通年を通して継続している活動と、依頼されて実施している講師派遣等の活動の2種類があります。それぞれの主な内容は以下のとおりです。

通年で継続している活動

こどもとおとなの自然塾: 柳瀬川の四季を親子でいっしょに楽しみながら、身近な自然の大切さ、楽しさを体で感じようというシリーズもののイベントです(2頁参照)。小学生までの参加者には「柳瀬川レンジャー」になれるスタンプカードをさしあげています。

柳瀬川・野鳥ウォッチング&水族館: 毎月第3日曜日に、志木中学校前の柳瀬川から水谷田んぼを巡るハードウォッチングを行い、合わせて、同じく志木中学校の前で魚類調査を行い、水槽に展示して見せてもらっています。

西原斜面林の手入れ: 毎月第2土曜日に、将来は志木市の緑地公園になる予定の、西原区画整理地区内の斜面林の下草刈りや散策路づくり、清掃等の作業を行っています。

講師派遣等の活動

プールのヤゴ救出作戦: 小学校のプールで誕生したヤゴをプール開き前に救出し、トンボの生態や飼育法を教えています。

学校への講師派遣: 小学校の総合的な学習の時間での柳瀬川河川敷を利用した自然環境学習や、小学校・公民館等のエコクラブに出向き指導をしています。(三芳町立竹間沢公民館「竹の子エコクラブ」の様子を2頁に掲載)

出前水族館: 市内のお祭りに、柳瀬川の魚を取り出前で水族館を展示したり、ご近所の川に出向き魚類調査の手伝いをしています。

「柳瀬川・野鳥ウォッチング&水族館」や「出前水族館」は、以前に本紙「里川」でも紹介させていただきましたね。「柳瀬川・野鳥ウォッチング&水族館」の水族館の方は、冬場の12月～2月まではお休みになるそうですが、野鳥ウォッチングの方は、冬場にしか見られない野鳥も多いので、年間を通してきちんと12回実施しているとのこと。

また、「こどもとおとなの自然塾」では、身近な自然環境をテーマにした体験型イベントを年に5回実施しています。2頁で紹介しているのは第4回目の「秋の夜に虫の声を聞こうかい」です。夕暮れ時の柳瀬川とその周辺で、それこそ子供と大人とが一緒になって虫を追いかけたイベント当日の様子になります。

この後は、来年2月に第5回目として「冬の渡り鳥を見てみよう」をテーマにした、毎月の野鳥ウォッチングとはひと味違った野鳥観察のイベントを予定しているとのことなので、柳瀬川の近くにお住まいの方たちだけでなく、新河岸川流域内のより多くの皆さんに参加してもらえることに期待しています。

エコシティ志木活動年表

1993, 1994年	志木市主催の市民環境大学講座が開かれる
1995年7月	環境大学の修了生を中心に、ワークショップ「志木市の環境基本計画を策定するにはどういうプロセスが必要か」を開催
1995年10月	「エコシティ志木」が発足
1996年	「水質調査」「プールのヤゴ救出作戦」「川を歩く会」が始まる
1997年	「柳瀬川ウォッチング」「野鳥調査」が始まる
1998年3月	「市民がつくる志木市の環境プラン」を発行
1998年	「オオバクサ抜き取り作戦」が始まる
1999年3月	多くの会員が参加した「志木市環境基本計画」が策定される
1999年5月	「とんぼになれ! プールのヤゴ救出作戦マニュアル」を発行
2000年3月	「柳瀬川散歩」渡り鳥たちの柳瀬川」を発行
2000年	柳瀬川の魚類調査(現在の「柳瀬川水族館」)が始まる
2000年11月	「ふるさとづくり賞」埼玉県審査で「優秀賞」全国審査で「原野奨励賞」を受賞する
2001年	エコミュージアム(河童のつづら)の構想開始
2002年8月	「エコシティ志木」がNPO法人となる
2002年	志木まるごと博物館「河童のつづら」の名称が決定、「お宝発見ツアー」が始まる
2002年9月	持続可能な社会へGO! 市民が創る環境のまち「元気大賞」2002「審査委員賞」受賞
2002年12月	「西原斜面林の手入れ」が定例化する
2003年6月	第4回さいたま環境賞「県民大賞」受賞
2003年11月	第1回お宝交流シンポジウム開催
2004年	河童のつづら構定を実施

湧水サロン「案河子(かかし)」の立ち上げ

黒目川や落合川の流れる東久留米市は、長期計画をはじめ様々なまちづくりの計画の中で、「湧水と清流の川とみどり」をうたっています。また、今年6月には「東久留米市湧水等の保護と回復に関する条例」が成立しました。

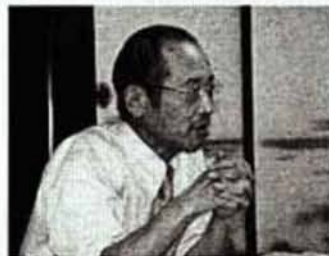
そうした中、湧水や河川、緑地などに関心のある人々が集まって、湧水の保全のため科学的データを基に議論する湧水サロン「案河子(かかし)」が立ち上がりました。

ここではその第1回目の様子を報告します。

第1回 湧水サロン「案河子(かかし)」は、去る9月16日(金)に、落合川がすぐそばを流れる南沢水川神社事務所(東久留米市南沢3-5-8)にて行われました。

前半は、「落合川・黒目川と地下水・湧水の保全について」をテーマに、20年以上に渡り東久留米市内の湧水に関する調査を行っている、法政大学工学部都市環境デザイン工学科 河川研究室 山田 啓一 教授に話題を提供してもらいました。主な内容は以下のとおりです。

- ・落合川の地下水の流出点については、湧水(雨沢、竹林など)から50%、河床から50%の割合で、落合川周辺の礫層の勾配に関係して約500mおきに流出点が現れる。
- ・落合川・黒目川の年平均流量は30年前に比べて約3割程度減っているが、多摩地区の他河川と比較すると変化が小さい(減少量が少ない)。これには豊富な湧水の影響も考えられる。
- ・落合川・黒目川ともに、周辺の降水量から蒸発量を引いた値よりも流出量が多いことから、地表の集積面積の2~3倍の範囲から地下水が集まってきていることが考えられ、空堀川の水が地下水となり流入してきていることが想像される。
- ・地下水の経路を追っていくのはとても難しく、河川の近くを流れている地下水でも、河川と反対側に向けて流れている箇所も珍しくない。
- ・雨水の地下浸透を促進していきたいが少なからず工事費用がかかるので、再生プラスチック、蓋、砂礫、シート、スコップ、つるはし等の材料で、自ら作れる「簡易浸透ます」を普及させてはどうか。
- ・流域や沿川の皆さんには「落合川・黒目川は日本一の都市河川である」という自負を持って欲しい。



法政大学工学部都市環境デザイン工学科 河川研究室 山田 啓一 教授

案河子(かかし)の目的:

検討結果を「東久留米市湧水等の保護と回復に関する条例」に反映するとともに、将来の子供たちに、この素晴らしい東久留米市の水環境を引き継ぐこととしています。また、この会では自由に意見を交わすため、飲めて組織とはせず「サロン」として、当日の司会者と話題提供者を設けるだけとしています。

案河子(かかし)の由来:

昔、人々の貴重な食料である「米」を守るために立てられた「かかし」。どうして「案山子」という字になったのでしょうか。稲の穂を食う鳥や獣たちを山へと導くという意味があるのでしょうか? いずれにしてもそこには、真剣に作物を守ろうと考えた村人の智慧が見えます。私たちは、少し滑稽には見えるかも知れないけど、東久留米市の川の「かかし」=「案河子」として、真剣に川の番人として、何ができるか、何をしなければいけないかを考えたいと思います。

写真提供は「東久留米・ホテルを呼び戻す会」の小松原さんでした。

後半は、山田教授への質疑応答や参加者の意見交換などが行われました。主な意見は以下のとおりです。なお、下2つの意見(井戸データの検証ならびに昔の利用方法)については次回のテーマとして話し合うことが決定しました。



- ・東久留米の個性は「水」であるので、どうすれば関心のない人に伝えられるか、もっと議論していきたい。
- ・落合川を覆うフェンスが河川とその周辺の景観を台無しにしているので、市民の要望としてこれらの景観を向上させていきたい。
- ・現在行っている井戸調査のデータを持ち寄り、検証していきたい。
- ・井戸や水車の所有者に昔の利用方法について話を聞きたい。

当連絡会としては、今後も東久留米市をはじめとする新河岸川流域内の湧水や清流の保全活動等について、注目していきたいと思っております。

■湧水サロン「案河子(かかし)」に関する問合せ: 0424-58-1537 (前嶋)

「都幾川で川遊び in たまがわ村」 2005.9.19

今回お邪魔したのは「都幾川で川遊び in たまがわ村」~おとな子どもも大集合・身近な自然で遊びましょう~というイベント。埼玉県比企郡、玉川村で行われるイベントに、我らが川づくりの会より、黒目川流域川づくり懇談会の小林さんをはじめ、新河岸川流域の各地から6名の川まつり好きが応援に駆けつけるというので、まずは現地に飛んで、どんなイベントが取材してきました。

主催はこの辺りで活動する「もりんど」と「比企の川づくり協議会」の皆さん。聞くところによると、この玉川村には身近に感じられる自然が多く残っていますが、近年ではそんな自然の中で遊ぶ子どもも少なくなってきているとか。そこで、かつての子供たちが身近な自然を遊び場として多に活用し、その中から様々な事を学んだように、玉川村の身近な自然の一つである都幾川で、川遊びや生き物調べを通して、自然から色々な事を学ぼうと、今回のイベントを催したとのことでした。

イベントの内容としては、

- ・生き物を探してミニ水族館を作ろう
- ・カヌー体験&お気に入りの川遊び
- ・自分だけの川地図を作ろう など

となっており、新河岸川からの応援部隊も「水を得た魚」の喩えのごとく、各々が十分な働きを見せているようでした。

参加した川づくりの会メンバーからは「玉川村周辺は、川があり森があり沢山の自然が残っていてとても素晴らしい所でした。新河岸川流域にもこうした自然を少しずつでも取り戻していきたいです」と言った感想が聞かれました。



草の根を足でさがして魚を追い込みます。指導にも熱が入りますね。



ミニ水族館をつくった後はお勉強の時間です。今日は幾つ覚えられるかな?



待ちに待った遊びの時間。カヌーとボートに乗って、みんな楽しそうですね!



身近な自然にふれ親しんで今日はとっても楽しかったね~! 記念の集合写真です!



新河岸川総合治水事務所の取り組みと役割

本紙でも報告掲載している「川づくり見学会・交流会」等では、見学会時の各施設の説明や質問・疑問に対する回答、また、交流会時の意見交換等々で、いつも大変お世話になっています。「新河岸川総合治水事務所」の取り組みや役割について紹介します。

新河岸川総合治水事務所では、地域住民や市民団体などと連携した河川整備等、さまざまな取り組みを行っています。それぞれの取り組みについて以下に簡単に説明します。

新河岸川流域川づくり懇談会

新河岸川流域の河川整備を行う行政職員と新河岸川流域の市民・市民団体とが一緒になって、これからの川づくりについて話し合う場として、平成17年度より開催しています。行政職員と市民・市民団体とが、連携・協働を図るための第一歩となります。

地域と連携した川づくり

近年、人々の価値観が多様化する中で、河川に対しても様々な機能が求められるようになり、平成9年の河川法改正では、その目的の中にこれまでの治水・利水に加えて「河川環境の整備と保全」が加わるとともに、河川整備への住民意見の反映が盛り込まれました。このような流れを受け、黒目川の整備計画を策定するにあたっては、行政、地元自治会および関連団体の意見が反映された川づくりを目標とし、東武東上線より下流の区間において地域と連携した改修を実施し、引き続き、東武東上線から上流の黒目川橋までの約1.7kmの区間についても事業を進める予定でいます。

寺尾調節池の出前講座

平成15年の寺尾調節池が完成してからこれまでに、合計7回の出前講座を実施しています。詳細（今年の6月に行われた7回目の講座）については次頁を参照下さい。

新河岸川放水路・びん沼川の浄化運動

新河岸川放水路およびびん沼川は都市化の進む流域の中にあって、貴重な親水レクリエーション空間として魚釣りや散歩など多くの人々に親しまれていますが、一部の心ない人々によるポイ捨てや不法投棄なども見られます。

そこで、平成2年度から、富士見市南畑地区の住民や関係企業・機関等によるボランティアを中心に環境浄化運動を行っています。

豊かで輝く県土づくりキャンペーン

埼玉県県土整備部では、毎年11月を「豊かで輝く県土づくりキャンペーン」月間として、県内の公共施設見学会や事業紹介などを開催するなど、身近な県土づくりを紹介しています。新河岸川総合治水事務所では、過去に「九十川排水機場見学会」や新河岸川・柳瀬川で「歩こう会」などを開催しています。

見学会・交流会では、いつも大変お世話になってます！本当にありがとうございます！



出前講座の様子！

出前講座とは、公共事業について、住民の理解を深めてもらうために、県などの行政職員が自ら出向き、事業についての説明や講演、講習などを行うものです。

新河岸川総合治水事務所では、寺尾調節池を利用した出前講座を、これまでに合計7回実施していますが、ここでは今年の6月に行われた7回目の講座について簡単に紹介します。

去る6月21日（火）に、上福岡市立福岡小学校4年生116名の皆さんを対象に出前講座を実施しました。

出前講座の主な内容は、「新河岸川のはなし、寺尾調節池の役割、施設見学、魚取りの実演、池内散策 など」となります。

生徒さんたちは午前9時に小学校を出発。寺尾調節池までの約2.6kmを、約1時間かけて歩いてきてくれました。皆さん汗を流しながらも元気な顔を見せてくれました。

初めに寺尾調節池排水機場の1階ポンプ室で、新河岸川の概要、歴史、寺尾調節池の役割、新河岸川周辺の生き物などについて学びました。次に2階操作室で、調節池に設置してある監視カメラの操作を実体験してもらいました。

池内散策では、釣りをしている人に魚を見せてもらったり、望遠鏡を使っていろいろな鳥を探してみたりしました。越流堤の近くにもたくさんの魚が泳いでいました。

約1時間半かけていろいろなことを学んでもらいました。終了時間がお昼を回ってしまい、歩いて学校に戻った時に給食が残されているのかどうかとても心配でしたが、とにかく皆さん、今日はお疲れ様でした。



取り組みの詳細はホームページで確認できます！
<http://www.pref.saitama.lg.jp/A08/BG02/idx.html>
「新河岸川へようこそ！」をご覧ください！



監視カメラの操作体験



望遠鏡を使った野鳥探し



越流堤の近くには魚がたくさん

なお、新河岸川流域内各河川の整備等を担当する埼玉県内の主な事務所を以下に列挙します。括弧内はそれぞれの事務所が担当する河川になりますのでご確認ください。

新河岸川総合治水事務所（新河岸川、びん沼川、柳瀬川、東川、黒目川、不老川）
朝霞県土整備事務所（黒目川、越戸川、白子川、谷中川）
川越県土整備事務所（新河岸川、九十川、柳瀬川、東川、不老川）
飯能県土整備事務所（不老川）